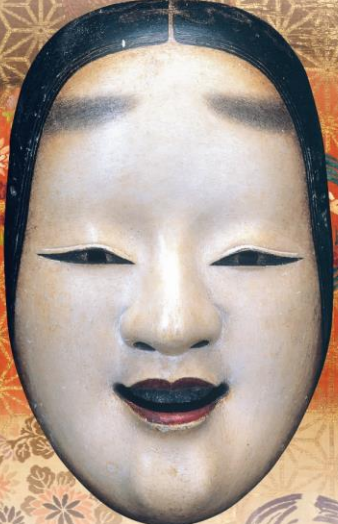


金沢能楽美術館企画展

KANAZAWA Noh MUSEUM COLLECTION



収蔵品展
衆人愛敬
しゅにんあいぎょう

会期 2025.3.20(木・祝) - 7.6(日)

Kanazawa Noh Museum
金沢能楽美術館

https://www.kanazawa-noh-museum.jp
〒920-0962 金沢市広坂1-2-25
TEL.076-220-2790 FAX.076-220-2791

【開館時間】午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
 【休館日】毎週月曜日（休日の場合は翌平日）
 【料 金】一般・大学生310円、65歳以上210円、高校生以下無料、団体（20名様以上）260円
 【アクセス】金沢駅東六園口（東口）バスターミナルより乗車、「広坂・21世紀美術館」または「香林坊（アトリオ前）」下車
 【主催】金沢能楽美術館（公財）金沢芸術創造財団
 【後援】北陸新聞社・NHK金沢放送局・MRO北陸放送・テレビ金沢・金沢ケーブル・エフエム石川・ラジオがなびわ
 ラジオこまつ・ラジオななほ
 能面 小面 / 江戸前期・17世紀、紅白黒紅段染葉四季花丸文唐織（部分）/ 江戸～明治時代・19世紀、扇路地桜文髪帯（部分）/ 江戸時代・19世紀 全て金沢市指定文化財



KANAZAWA Noh MUSEUM COLLECTION

金沢能楽美術館企画展

収蔵品展 衆人愛敬

しゅにんあいぎょう

会期 2025.3.20(木・祝) - 7.6(日)

江戸時代、加賀百万石の大名前田家のもと高度な武家文化が花開いた金沢。なかでも能楽は武士の嗜みとして手厚く保護育成されました。將軍に倣い、五代藩主前田綱紀が宝生流の家元を指南役としたことから、加賀では能五流のひとつ宝生流が根付き栄えます。明治維新による幕藩体制の終焉は一時の衰退をもたらしましたが、加賀では佐野吉之助をはじめとする能楽師と愛好者らの尽力により復興、のちに「加賀宝生」と称されるほど広く浸透しました。

能を大成させた室町時代の芸能者、世阿弥が記した伝書『風姿花伝』に「衆人愛敬」という言葉が登場します。『観音経』からこの言葉を引用して、能が身分を問わず多くの者に愛され大切にされる芸となることを求めています。

加賀宝生の誇りのもと民衆に愛され、守られてきた能楽。世阿弥の理想が体现された地で、当館所蔵品を中心に美の粋を集めた能装束、奥ゆかしい能面などをご紹介します。

金沢市のウェブサイト「金沢ミュージアム+」で、当館所蔵品の一部を画像にてご覧いただけます。



帝冠紅襦袢袴袖に南公美石燈に芙蓉文唐織
江戸時代・18～19世紀
金沢市指定文化財



紅地霞に飛鶴流水に菊文織帯
明治時代・19世紀
金沢市指定文化財



能面 父尉
面美 金観「財通 首圓（化粧）」
室町時代・16世紀
金沢市指定文化財

表面画像：能面 小面 / 江戸前期・17世紀、紅白黒紅段染葉四季花丸文唐織（部分）/ 江戸～明治時代・19世紀、扇路地桜文髪帯（部分）/ 江戸時代・19世紀 全て金沢市指定文化財

写 謡 の 会

当日の午後には催される定例会（於石川県立能楽堂）について、能楽師の解説の後、宝生流謡本の流麗な文字をなぞります。どうぞお気軽にご参加ください。

時間：右記日程の 10:15～11:15
 場所：金沢能楽美術館 3階研修室
 料金：各回500円＋観覧料（一般310円）
 持物：筆ペン
 申込：金沢能楽美術館（076-220-2790）

※この講座は申込みが必要です。

日程	曲目	講師（シテ方宝生流）
4月6日(日)	松風・綾鼓	渡邊 茂人 師
5月4日(日・祝)	加茂物狂・山姥	佐野 弘宣 師
6月1日(日)	盛久・草薙	木谷 哲也 師
7月6日(日)	阿清・来殿	藪 克徳 師

Kanazawa Noh Museum 金沢能楽美術館

〒920-0962 金沢市広坂1-2-25 TEL.076-220-2790 FAX.076-220-2791
 【アクセス】金沢駅東六園口（東口）バスターミナルより乗車、「広坂・21世紀美術館」または「香林坊（アトリオ前）」下車

金沢能楽美術館  <https://www.facebook.com/kanazawa.noh.museum>
<https://www.kanazawa-noh-museum.jp>

